会　議　結　果　報　告　書

会議結果の概要をとりまとめましたので報告します。

会議の名称	令和２年度　第１回 東栄町総合計画推進会議	開催年月日	令和２年６月１８日（月）
開始終了時刻	午前１０時００分～正午１２時００分	開催場所	東栄町役場会議室
出席者	評価委員：愛知大学地域政策学部長岩崎正弥、椙山女学園大学准教授阿部順子 東栄町商工会長村本敏美、愛知東農業協同組合東栄支店長後藤佳史 東栄町区長会長原田邦夫、イベント実行委員経験者山本貴子 東栄まちづくり座談会実行委員会和合真由美、東栄郵便局長金田徹也 時事通信社豊橋支局長小林岳史、東栄町校長会長後藤理恵 東栄町：町長村上孝治、副町長伊藤克明、参事村松元樹 振興課長長谷川伸、振興課企画政策係長佐々木和歌子 振興課企画政策係市野瀬貴史、振興課企画政策係西森政智		
資料	資料１、１－１、１－２、１－３、１－４、資料２、資料３		

会議の概要

＜議事の概要＞
あいさつ
議事
１　座長氏名
２　第６次総合計画後期計画の策定に向けて
　（１）前期の振り返り（資料１　他）
　（２）方針案
　（３）骨子案
３　委員からの意見
４　今後のスケジュールについて

＜協議・報告事項　詳細＞
【開会　午前１０：００（あいさつ）】

（事務局）
　これより、令和２年度第１回総合計画後期計画推進会議を開催します。開催にあたりまして、町長より御挨拶申し上げます。

（町長）
　おはようございます。第１回総合計画後期計画推進会議を開催します。
　委員の皆様方には、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。
　人口が減る中でのまちづくりをどのように行っていくかは、長い間まち全体が向き合ってきた大きなテーマであり、一朝一夕には解決できるものではないと思っています。
　東栄町においてもまちづくりを冷静に分析し、未来につなぐための見直しを繰り返してまいりました。
　第６次総合計画そのものは10年の計画であり、前期計画は28年度から本年度令和２年度で終了します。来年度からは令和３年度から７年度の後期計画が始まる、５年に一度の大きな節目の年となっています。そして東栄町は今年度65周年を迎えます。

新型コロナウイルスの感染やそれに起因する数々の問題が世界そして日本各地で起こって人々の暮らしに大きな影響を与えているわけです。「新しい生活様式」という名の下、暮らしの在り方や働き方、必要な社会基盤整備へも、大きな急激な変化が求められています。

町・暮らしに関わる人が、幸せを実感できるまちづくりというのが、5 年前に基本構想として掲げたまちづくりの大きな目標であります。この目標を実現するためには、この地域で安心して暮らすことができる仕組み作りが重要であり、暮らしの安心・安全の総点検が必要となると思います。

東栄町は昭和 30 年以降人口が減り続けています。私が町政をお預かりした平成 27 年 4 月、この時点で 3,450 人ほどの人口でしたが、令和 2 年 3 月、約 400 人強人口が減少、現在は 3,100 人を切り、高齢化率は 49%です。人口減少や年齢構成の変化によりまして、多くの課題が発生しています。人口減少にともなって、財政的資源・物質的資源が減少する中であります。限られた資源を優先順位をつけながら、計画的に町づくりを進めていきたいと考えています。行政課題全般に、特に人口と人材の動向、こうしたことも勘案しながら分析・評価・決断をしてまいりたいと思っております。

みなさまと意見交換をしながら、町一丸となって今後 5 年間のみんなのまちづくり計画を策定していきたいと思っております。委員の皆さまには、昨年策定していただいた総合戦略でもお世話になっております。このことも踏まえて、それぞれの立場から忌憚のないご意見をいただき、行政ともども計画を策定していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）

それでは議事に入ります。

まず座長指名ですが、議事の進行役として、愛知大学政策学部長の岩崎先生に座長をお願いしたいと思います。岩崎先生には、これまでも総合戦略や総合計画の策定時の座長の他、平成 29 年度から実施しております、総合計画戦略会議の評価委員も務めていただいております。岩崎先生、よろしくお願いいたします。

（岩崎座長）

みなさんおはようございます。ご指名を受けました、愛知大学の岩崎でございます。

昨年度の戦略会議では家庭の事情で皆様にご迷惑をおかけしました。この場を借りてお詫び申し上げます。

対面式の会議というのは、実は私も久しぶりです。今大学でも全てオンラインの授業になっていまして、家庭あるいは研究室から授業を流している、そういう状況です。でも対面式にはいいことがそれなりにあると思います。今回は後期計画の策定ということで、是非皆様から忌憚のないご意見をいただき、自由な意見交換ができればいいなと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日は議事が 3 件程だったと思います。議事に従って進行していきたいと思います。

まず初めに、先程町長のお話ありました通り、第 6 次の総合計画、10 年間の計画の前期が今年度で終わります。その後期計画の策定に向けて、事務局から、前期計画期間の振り返り・方針案・方針案の骨子案の説明を最初にしていただきたいと思います。

その後、委員の皆様から事務局の説明に対するご意見をいただくということで、今回は策定方針を固めるということが一番の大きな狙いでございます。

その後、今後のスケジュールについて情報を共有して終了、そんな流れを考えております。

それでは、第 6 次総合計画後期計画策定に向けて、事務局から説明をしていただければと思います。

よろしくお願いいたします。

（事務局）

振興課の佐々木です。よろしくお願いいたします。

はじめに配布資料の確認をさせていただきます。

・資料 1-1　「前期計画期間の振り返り」
・資料 1-2　「第 6 次総合計画後期計画の策定に向けた住民意識調査結果報告書」
・資料 1-3　「基本施策目標値の 2019 年度実績値について」
・資料 1-4　「第 2 期東栄町人口ビジョン・総合戦略(抜粋)」
・資料 2　　「骨子案」
・資料 3　　「今後のスケジュール」
・参考資料　「住民意識調査　年代別結果」

本日、改めて配布させていただいた資料として、2 点ございます。
次第については、みなさんに事前にお届けしたものと変わったところがございます。
また、資料 1-2 を改めて配布しました。以前「住民意識調査結果報告書」を届けさせていただきましたが、一部修正がありました。今週に入って追加で郵送した年代ごとの分析を間に挟み込んで綴じたものを改めてお配りしました。
配布させていただいた資料については、以上の通りとなります。

前期計画期間の振り返り及び方針案等について説明をいたします。
まず初めに、資料 1-1 前期計画期間の振り返り　をご覧ください。こちらでは、振り返りのポイントとして、「住民満足度」、「前期計画期間の進捗状況」、「人口推移」、「その他」の 4 つを上げています。
一つ目の「住民満足度」については、昨年度 9 月に実施した住民満足度調査の結果を振り返ったものになります。この調査は、18 才以上の全住民を対象に、まちづくりへの満足度を確認するために 5 年に一度、総合計画の見直しを行う前年に行っているものです。今回は 2,851 通発送し、有効回答数が 1,300 通、45.6%の回答率となっています。

お手元の資料 1-2　「第 6 次総合計画後期計画の策定に向けた住民意識調査　結果報告書」をご覧ください。この調査の報告書については、5 月の広報誌と合わせて世帯回覧するとともに、ＨＰでも公表しております。本日は、この報告書の一部を抜粋して説明いたします。
まずは、13 ページをお開きください。ここでは、自然環境分野についての満足度の結果を記載しております。この後、25 ページまでは、まちづくりに関する各分野への満足度を順に記載しておりますが、男女共同参画社会の推進を除き、5 年前と比較して満足、やや満足との回答率が低下しています。特に医療体制については 64.7%から 18.3%へと大きく低下しています。その他、健康づくり、高齢の方や障害のある方の暮らしについても満足度は、それぞれ 15%程度低下する結果となりました。その一方、子育て環境や保育サービス等については、5 年前と大きな差のない結果となっています。次に特徴的なのが、地域づくりについてです。ボランティア活動の満足度が 71.1%から 49.8%へと大きく低下しているほか、町の情報入手についても前回より 14%程度満足度が低下しています。
続く 26 ページでは、住みやすさの割合をまとめています。前回と比較すると、暮らしやすさは 6.5 ポイントマイナスとなっており、緩やかではあるが暮らしやすさを感じる人の割合が減少しています。
次の 27 ページでは、定住意向についての結果です。5 年前同様、80%を超える人が定住意向を持っていることが分かる結果となりました。アンケート回答者の年齢別割合をみると、回答者の 61%が 65 歳以上であることから、暮らしたい、暮らし続けたい、という意思表示の裏側には、様々な理由があることが想像できますが、いずれにしても、8 割を超える人が定住意向を持っているという結果が明らかになりました。また、この項目では、子育て世帯のみを対象として抽出した結果も掲載していますが、全世帯を上回る 83.6%が定住意向を示していることが分かりました。
次に 29 ページからは、東栄町の暮らしやすさ・暮らしにくさの理由を選択していただくという質問です。30 ページに暮らしやすい点の結果が掲載されています。暮らしやすさを感じている人は 55%、今後も暮らし続けたい又は当分の間暮らし続けたいという定住意向があるのは 80%を超えています。
暮らしやすい点は、自然環境や助け合える人間関係があること、地域社会とのつながりの楽しさ、等が主な理由となっています。これは、従来からこの町にあるものや、自然にはぐくまれてきたもの、が暮らしやすさ、町の強みになっていることが分かる結果だと思います。
続く 31 ページでは暮らしにくさの結果が掲載されており、買い物や公共交通の不便さ、町の活気やにぎわいのなさ、必要な福祉医療等のサービスが受けられないことへの不安感、等が挙げられています。これらは、施設等の基盤整備や担い手の確保が必要なものであり、十分な整備等ができていないことが暮らしにくさ、暮らすうえでの不安や不満につながっていると捉えられています。
これらの点から、2 つのことが考えられます。
・東栄町で暮らし続けたい、または暮らし続けていくことを決めた人が 8 割程度いる。こうした人たちが暮らし続けられるまちづくりをしていく必要がある。
・暮らしの中に、従来からある強みと捉えられている点と、整備等がいきわたっておらず町の弱みと捉えられている

今後は、暮らしやすさの強みを町の魅力と捉えさらに伸ばす一方、暮らしにくさにつながっている弱みを改善するために、これまでの取り組みへの振り返りと見直しが必要となると考えています。
この第6次総合計画の10年間の目標である基本構想には、「町を住みやすいと感じ、今後も住み続けたい、訪れたいと思える町にしていくため、町民みんなが力を合わせ、本町の特徴を最大限に生かして、みんなが幸せを実感できるまちを育んでいく」と書かれています。この2点の考え方は、基本構想と合致することから、後期計画の策定にあたっては、この基本構想を堅持することとしたいと思います。

次に、振り返りの二つ目のポイントである、「前期計画期間の進捗状況」について説明をさせていただきます。資料1の3、カラーのA3のものをお開きください。こちらでは総合計画の基本施策ごとの目標値と2019年度の実績値を記載しています。具体的な実績を説明する前に、計画の体系について少し説明をさせていただきます。
総合計画は、先ほどから説明をさせていただいている通り、10年間の大きな目標や将来イメージを記載した基本構想という部分と、基本構想に示すまちづくりに向けた分野ごとの方向性を示す基本計画、そして事業などの具体的な取り組みを記載した実施計画、この三つから成り立っています。この資料1の3で、一番上のところ、黄色く塗ってある部分、こちらが基本構想に当たる部分になります。将来イメージとして、山の恵みを受け、共に築く彩りの里をキャッチフレーズに掲げ、その中で基本目標として七つのまちづくり目標を掲げています。
その右側になりますが、薄い緑色の部分、こちらが基本計画となります。基本施策とその目標値を設定し、進捗管理を行うことで、基本構想にある七つのまちづくりを実現することを目指しているものです。そして、この表の中にはありませんが、基本計画を実現していくための具体的な事業を実施計画に記載し、こちらは毎年自己評価と外部の有識者による行政評価を行うことで進捗管理をしていくものです。
まずこの資料では、基本計画の目標設定に対し、昨年度の実績や分野ごとの総括をすることで、前期計画の進捗状況を振り返りたいと思います。
表の見方ですが、先ほどの説明のとおり、基本構想のすぐ隣、基本計画の一番左部分、基本施策というものが書いてあります。これは、七つの基本目標の中でそれぞれ取り組むこととして掲げたもので、この基本施策ごとにそれぞれ目標値の設定をしています。目標値の設定の仕方は、前回計画策定をした2014年時点の数値を現状値とし、計画の中間年である本年、2020年の目標値、および計画最終年である2025年の目標値を設定したものです。そして、直近の実績値として、2019年度実績値を記載しています。この実績値欄の中で薄赤色および青色が付いた部分が目につくのではないかと思います。これは、2014年現状値を下回ったものになります。その中で、薄赤色については、住民満足度を目標値にしているものです。そして青色は、住民満足度ではなく、事業実績値を目標値にしているものです。その青色の部分については、2014 年の現状値を下回った理由を一番右端の総括欄に記載をしています。総括欄では、七つの基本目標ごとのこれまで4年間の総括、また毎年行う、外部有識者による行政評価からの助言も合わせて記載しています。
1ページ目の、「支え合う健康福祉のまちづくり」から順番に振り返りをしたいと思います。資料の中のものをかいつまんで説明をさせていただきます。主に総括欄を確認していく形になります。
まず、この分野では、東栄病院を平成30年4月に公設公営化したほか、昨年度からは有床診療所として地域医療の維持、確保に努めています。今後は令和4年4月の移転と同時に、新たに設置をする保健福祉センターや子育て支援センターの機能などを含めて現在調整を進めているところです。また、保育園の一園化では、施設の機能統合だけでなく、早朝および延長保育のニーズに対応できるような体制の整備を行いました。また平成29年度には、地域包括ケア推進計画を策定しました。また、地域の中では、おいでん家が定着をしていると思います。また、配食サービス、移動販売、福祉タクシー券助成制度など、各種サービスがあります。こうしたもので暮らしを支えるということをしているわけですが、今後は暮らしを支え続けていくという観点から、利便性や持続性に焦点を当てた見直しが必要な段階に入っていると思っています。また、これまで行政評価において、介護、医療などの暮らしのセーフティーネットは、政策を支える産業の土台部分となることや、地域での暮らしを支える地域包括ケアシステムは、町民に共有されてこそ生きるものだという助言をいただいています。
なお、実績値が下がった事業については、健康診断の受診者が減る中、効率運営を目指したことや、受診者の待ち時間解消のための工夫を行って施策を進めてまいりましたが、なかなか新規受診者の開拓などには至らなかったという点があります。また、特定保健指導の実施率などについては、もとも

との対象者が少ないことや、実施側の人手不足などによって、実績値を大きく下回る結果となっています。

「豊かな文化と心を育むまちづくり」について説明をします。小中学校の施設整備として、エアコン設置や電子黒板の導入など、必要に応じた教育施設の整備を行いました。また、生涯学習教室では、講師人材の確保を行うなどをしながら、新規講座の開設にも挑戦をしてまいりました。

多文化共生および国際交流については、全体では大きく満足度が下がっていますが、子育て世代に対象を絞った値は、70.9 パーセントと前回同様の満足度になっていることが分かりました。

特別支援教育については、支援員の人数を目標値とし、現状値８人だったところが、実績値では７人となっています。これは、その年度ごとに小中学校が必要とする人員を配備したところこのような値となり、適正な人員を配置した結果、2019 年度７人となったという報告を受けています。

次に文化財に関する講座の参加者数です。総括欄にある 2019 年度の表記を 2014 年度に修正していただくようにお願いします。2014 年には、桜平遺跡の復元講座を行っています。単年度で復元作業は終了し、現在はさまざまな主体が復元した遺跡を活用し、学んでいく段階に入っているそうです。

３の、「安心安全に暮らせるまちづくり」の説明をします。この分野では、防災士の育成に取り組み、現在 14 名の防災士が育成されています。また、住民満足度調査からは、非常持ち出し品の準備や防災訓練への参加など、一人一人の住民が災害時への備えを行っている割合が高いということが明らかになっています。また、行政評価では、防災という分野は、災害という局面において、全ての行政分野の事務を考える必要性があることや、自助、互助、共助を見直すきっかけになることなどの助言を受けています。

４の「環境と暮らすまちづくり」についての説明をします。ストックヤードを設置し、町全体でリサイクルに取り組む仕組み作りを行ったということが挙げられます。

下水道および農業集落排水事業においては、施設管理や更新のための計画策定をしており、持続的な事業継続に向けて取り組んでいます。また、平成 29 年度には、管理の異なる飲料水供給施設など 12 施設を統合し、上水道のより効率的な運営につなげています。

実績値の低下については、資源ごみの回収実施地区数は、実施をしていた事業者の都合により、開催地区数は減っていることが原因として挙げられますが、ストックヤードの設置など町内の資源回収ができる仕組みによって補われています。

景観づくりに取り組む団体数には地域づくり支援事業補助金制度の活用団体を目標値として掲げてカウントしました。実際には補助金事業以外にも、それぞれの地区において道つくりなど清掃活動や地域の景観づくりに取り組んでいるということも分かっています。

5 つ目は、「活力あるまちづくり」です。こちらでは、さまざまな分野について、担い手の確保に苦慮していることが明らかになっています。農業、林業ともに、鳥獣害の被害が深刻であり、対策への費用などがかさんでいます。こうした状況は、ただでさえ担い手確保が困難な分野にとって、非常に大きな課題になっています。

平成 29 年度には、振草川のアユがグランプリを獲得したという嬉しいニュースがありました。これを機に漁協を中心にアユの買い取り制度を始まり、観光資源としてだけでなく地域の中に新たな経済循環の仕組みを作るという成果にもつながっています。

また同じく平成 29 年度には、東栄町観光まちづくり協会を設立しています。新しい視点や SNS を活用した情報発信、事業者の連携のつなぎ役などを担っています。昨年度行った「ホタルの散歩道」では、町外から多くの観光客が訪れ、近隣の店舗への来客が増えるなど、具体的な成果にもつながっています。合わせて、naori・ビューティーツーリズムを商標登録し、美をテーマに地域全体で稼ぐまちづくりを進めており、そうしたものの中核を担うコンテンツとして naori・ビューティーツーリズムを確立させてきました。

実績についてですが、とうえい温泉の入浴者数が、2014 年の現状値を下回っています。この点については、機械の故障が相次ぐ中、昨年度施設改修の計画に沿ってボイラーの更新などをしています。なるべく休業のないように体制整備を図ったところですが、新型コロナウイルスの影響や暖冬によって近隣自治体への観光客数が減ったことなど、さまざまな影響により入浴者数が減少しているとのことです。行政評価では、イベント開催の目的確認、または地域内経済循環につなげるといった視点がイベント開催には必要ではないかといったご指摘を受けています。

６番目は、「定住、交流を支えるまちづくり」についてです。平成 30 年度は転出者が転入者より少ない、つまり引っ越しをして東栄町に入ってくる数のほうが多く、人口の社会増となりました。また、小中学生の児童生徒数はほぼ横ばいで推移しています。Ｉターンや U ターンのほか、町内での転居や

進出といったものも近年増加傾向にあると見ています。その他、町営バスについても、試行運転などを実施し、平成 30 年度には平日の増便を行うことで、東栄病院の通院の利便性向上に努めています。ただし乗降客数は減少傾向にあり、従来のバス利用者の死亡や転出などが主な原因です。今後は医療センターの新設に合わせて、医療機関や商店、金融機関などが集積する地域をバスが巡回する仕組みを作り、暮らしの利便性に努めていきたいと考えています。

また、特設情報ネットワークの維持には財政的に大きな負担がかかっています。しかし、今回の新型コロナウイルスの危機以降、サテライトオフィスやリモートワークなど、こうした山間地域での暮らし方、働き方など多様化していることに伴い、今後、情報基盤整備の充実というものは、さらに一層求められるものになると考えています。

そして、この分野の行政評価では、「移住、定住など施策がうまくいっているところについては、民間の動き、地域住民の方の動きが非常に活発になっているのではないか。」「そうしたタイミングだと、いつまでも行政がやっているのではなくて、民間のほうにバトンタッチすべきタイミングを見極めていく必要がある。」といった助言もいただいています。

次は七つ目の、「協働によるまちづくり」です。こちらでは、昨年度全地区の集落カルテの作成を終え、地域と行政との情報共有を行っています。今後も更新作業を続けていくことで、情報共有をさらに深め、地域づくりの資料となるようにしていきたいと考えています。

また、今年度からは、町の情報提供機会の向上を目指して、テレビで情報発信を行う東栄チャンネルを開始しています。その他、公共施設の管理計画を平成 28 年度に策定しており、今年度中には個別の計画、さらに細かい計画を策定し、長期的な視点に立った公共施設の運営に努めていきたいと考えています。

この分野の行政評価では、「高齢化により地域内の自助や互助の力が低下していること、また公共施設の老朽化などにより更新時期の到来など、今後財政負担が増大されることが予測されている、そのような資源が減っていく、地域系資源が減っていく中では、住民と行政が共に情報を共有して判断をしていかなければならない。」「今、どのような判断をしていくのかを決めるためには、客観的なデータの共有によって、まちづくりに関わる全ての人と一緒になって判断を重ねていくことが大事ではないか。」という助言をいただいています。

次に、振り返りの三つ目のポイントとして、「人口推移」について資料１の４を使って説明させていただきます。

１ページ目にあるとおり、今後も人口減少は続いていくことが見込まれています。また人口構成比率についても、年代ごとに大きな隔たりのあることがお分かりいただけるかと思います。このような点からは、高齢の方の町全体の人口の中に占める割合が高いことから、自然減による人口減少傾向は今後も続くこと、それは自然なことではないかということがお分かりいただけるかと思います。

次に２ページです。こちらは合計特殊出生率の変動を示しています。５年周期で乱高下をしていますが、長期的に見ると減少傾向にあります。一方、出生数に比べ、小学校入学時点の人数が多い傾向にあることが、下の４番目のグラフでお分かりいただけるかと思います。また、直近５年間の年少人口の割合は少し増えています。

次に３ページをお開きください。こちらでは、先ほどの年少人口の割合が少し増えていることを数値的に確認できるものですが、小中学校の１学年平均児童生徒数の推移は、平成 28 年度以降はほぼ横ばいです。保健師への聞き取りをしたところ、町外で出産をし、子どもが小学校入学前に転入をするケースが少しあるということです。

こうした点からは、子育てをしたい環境が東栄町にはあるということを感じている方もみえことが分かり、今後は教育環境や子育て環境のさらなる充実によって暮らしやすいまちづくりを進めていくチャンスではないかと捉えることができると感じています。

次に４ページ目です。将来展望人口について、現在の展望人口と５年前に算出した展望人口を比較したものになっています。上が直近の展望人口であり、2040 年には 2,259 人を目指す形になっています。

これらの要因としては、前期計画の進捗状況の中でも説明したように、前期計画期間中に移住定住施策に力を入れて取り組んできたことが挙げられます。ただし、政策はエンジンがけにすぎず、移住者や移住者との関わりを通じた人のつながりや輪の広がりによって、単年度で社会増になるなど、具体的な成果が得られたものと思っています。

これらの人口推移から、成果を生かし課題の見直しを行うことで、東栄町で暮らしたい人を支える

仕組みや環境づくりが必要だと考えています。そのため、あらためて暮らしの安心安全の整備、強化、再構築を後期計画策定のテーマとしたいと考えています。
　四つ目の「その他」です。ポイントを幾つか挙げていますので、資料１の１にお戻りください。ここでは、前期計画期間中、この前後を通じて新たに起こったことなどを挙げ、後期計画策定の新たな視点にしたいと考えています。
　一つ目は、まちづくり基本条例が平成 30 年４月に施行されたことです。この点を計画の序論部分に明確に位置付けを行い、まちづくり基本条例の理念の浸透、および理念に沿ったまちづくりを進めていくようにしたいと考えています。
　二つ目は、三遠南信自動車道の開通です。平成 24 年３月の鳳来峡インターや平成 31 年３月の東栄インターー佐久間間の開通などがありました。また、鳳来峡インターから東栄インターの開通に向けた工事が現在も進められています。こうした高規格道路の整備によって今後町がどのように変わっていくか、という見通しを持った視点が必要だと感じています。
　三つ目ですが、新型コロナウイルス感染症による社会の変化です。新しい生活様式の実践が求められているということが新しい視点だと思います。後期計画においては、東栄町の暮らしやすさや特徴を生かした、東栄町の新しい生活様式を明確に定義し、実現や定着に向けた計画作りをしていく必要があると考えています。
　以上四つのポイントをお話しさせていただきました。

以上の点から、後期計画の策定方針としては、
1. 基本構想を堅持し、その実現に向けた見直しを行うこと
2. 見直しの際には暮らしの安心安全の整備を重点テーマとすること
3. 社会の変化に合わせた新しい視点を取り入れながら作業に当たること

を方針としたいと考えています。

　続いて、この方針案に沿った骨子案の説明をします。資料の２を使いますので、お手元にない方は挙手をお願いします。
　こちらは後期計画の骨子案ということで、目次的部分となります。序論では、今まで書いてあった計画の、策定の趣旨や役割、位置付けについて明確にしながら、そのときの東栄町の現状や将来展望、また町の特性の分析、課題、そこからのまちづくりの方向性を明らかにしていきたいと思っています。先ほど説明させていただいたまちづくり基本条例の位置付けについても、こちらで明確に追加をしたいと考えています。その他は、５年前に作成したものになりますので、時点修正をしながら、町の特性または課題、今後の方向性を再度整理したいと考えています。そして、続く基本構想は先ほど説明したとおり、10 年間の大きな目標であることから、引き続き堅持をしていきたいと考えます。
その次の基本計画です。こちらは部門別に七つの基本目標達成のためのさまざまな施策が書いてありますが、七つの基本目標達成を目指して、基本施策の見直しを行っていきたいと考えています。また、ただ見直しを行うだけではなく、現在各分野において実施をしている計画や取り組みについても位置付けをしたいと考えます。また、この後期計画の策定に当たっては、なるべく多くの人に分かりやすい計画作りに取り組むことも考えています。例えば、前期計画の中にある重点プロジェクトや昨年度皆さんにご協力をいただいた第２次総合戦略、または GIS などさまざまな分野に位置付けをしながら書かないといけないものについては、文字ではなくてアイコンなどを使用して、分かりやすい形で書いていきたいと考えています。

（岩崎座長）
　どうもありがとうございました。ここからは委員の皆さまからのご意見をいただきたいと思います。今、資料の１、資料の２に基づきまして、前期計画の振り返り、それに基づく方針案、さらに方針案を基にした骨子案と、三つをご説明いただきました。今回特に意見をいただきたい部分は、とりわけその方針案を固めたいということです。そのためには、今事務局から振り返りがありましたけれども、振り返りの不足部分があれば、その点を指摘いただく、それからさらに振り返りを基にして方針案を作りましたけれども、その見解に不整合な部分があれば、その点もご指摘いただくことを狙いとしたいと思っています。
　事前に事務局から、特に委員の皆さんには、このようなところでご意見を事前に考えておいてくださいというリクエストがあったかと思いますけれども、これから大きく五つに分けて皆さんからご意

見をいただきたいと思っています。
　まず第１に基本施策目標値の妥当性や設定方法に関してです。それから２番目が満足度調査とその結果をご報告いただきましたけれども、それに関する意見。それから三つ目、特に重点施策、重点に置きたいとお話しいただいた、暮らしの安心安全に関することです。さらに四つ目としまして、新たな視点に関する助言をいただければと思います。さらにその他５番目としまして、委員の皆さんがまちづくりについて感じている点がありましたら、その点もご意見を伺えればと思っています。以上５点を順番にやっていきたいと思います。
　それでは、まず１点目ですけれども、基本施策目標値の妥当性や設定方法について。今回の振り返りでは事業実績値と、それから住民満足度調査、この二つを指標にしています。特に起こりがちなのは事業実績値、これは目標の数字を達成したか、達成しないか、そこにどうしても目が行きがちなのですが、数字を達成したとしても、それに伴う成果が出ていないものや、逆に事業実績値を下回ったとしても成果が出ているものもあろうかと思います。ですから、単にアウトプットという数字だけではなく、場合によれば成果、いわゆるアウトカムと呼ばれる点を指標にすることも考えざるを得ないのかなと感じています。
　また、住民満足度調査ですが、これは今日特にご説明ありませんでしたけれども、年代ごとの資料も資料の１の２に付いていたかと思います。
　そのような点も参考にしていただきながら、基本施策の目標値の妥当性や設定方法についてご意見があれば伺えればと思います。
　では、外部の視点から、もしあれば伺えればと思います。よろしくお願いします。

（山本委員）
　まず資料１の３にあります目標値とその達成の資料について思いましたのは、特に青色で網がかかっている部分、先ほどの資料の左下にも、青色のセルについては実績値という書き方がされています。つまり、赤色のところは住民への聞き取りによって判明した部分、実際の声に基づいた答えなのかと思いますが、一方で青色は実績値ということで、過去に設定された目標に対してどのくらい達成されているかだと思います。正直その目標というものが、住民の方の目線で設置された目標なのかというのには非常に疑問が残ると思っています。特に１の３の１枚めくったところの最初、学校教育、特別支援教育支援員の人数は、実績値が７ということで、ただ理由の欄、一番右の欄のところには、目標値には達成していないけれども、実績値としては適正だと現場の方がおっしゃっていることから、正直この目標自体が意味をなさないのではないかと思われます。
　あとは、これは先ほどお隣の後藤先生にお話を伺いましたけれども、生徒の数というものは大体町内で 100 人ぐらい、113 人いらっしゃるということで、大きく減ってもいないということなので、ただ今後例えば生徒さんの数が減れば、それに合わせて適正な指導員の数というものも減るでしょうし、逆に増えてきたときには増やすという、そのときに応じた対応は必要になってくることなので、ここについては目標値というもの自体がナンセンス、意味がないのかと思っています。
　一方で、満足度調査で出てきた数字、郵送での調査の回収率が四十何パーセントということで、非常に高い回収率だと思っています。そういう意味では、住民の方の意見を十分に受けとめられているのではないかと思います。住民の方の声をやはり第一に考えて計画を練り直す、あるいは現状でもあまりにも件数が多いのかなという気がするので、必要のない部分については思い切って計画自体から外すなどスリムにして、かつ達成が比較的数字上しやすいものについては優先的に進めるなどのような対応が必要なのかなと思いました。

（阿部委員）
　私もおっしゃるとおりだと思います。多分これは設定の仕方がいろいろあるのだと思いますけれども、例えば特別支援員について。②のところ、豊かな文化と心を育むまちづくりの特別支援員、教育支援員の人数は適正かどうかというような判定になるのだと思います。人数はかるのではなく、適正な人数が確保されているかという問いに対して、○か×かということになります。だから多分もう一つ欄が増えて、◎、○、△、×のような判定ができる基準を作る、数字でだけではなく、達成できているかどうかです。
　満足度、あいさつ運動の目標値ですけれども、あいさつ運動は 100 でなければいけないのか。８割ならば大したものだなと思うので、全部が満足度 100 パーセントを目指すのではなくてもいい。８割くらいを合格ラインと決めて、８割であれば丸、９割であれば二重丸などの評価の仕方でいいと思い

ます。満足度は常に100を目指すというのは現実的ではない、少し考えてもいいのかなと思います。指標作りはとても難しいです。定量的な数字でやると一見公平なように見えますが、噛み合わない部分も出てきますので、設定の仕方、目標達成の仕方を考えることです。
　最後に一点、アンケートは、満足度に不満のある人のほうが書くので、辛めに出るということもあるかと思います。そこをうまく説明するのは難しいのですが、それも踏まえて、100パーセントにこだわって、そこに達するまで毎年聞いて比較することは実態に沿わないので、８割、そこはまた議論のあるところだと思いますけれども、お考えいただければと思います。

（岩崎座長）
　ありがとうございました。ではせっかくですので、内部の方の意見、もし何かありましたらお願いします。

（山本委員）
　評価というか、目標値設定というこの満足度は、聞いていても難しい。私が以前やっていた病院でも、患者さんに対して目標を立てます。例えば脳梗塞で右まひの人に「目標値：入院前と同じように歩ける」というようなありえない目標を立ててしまいます。病院の例はまた分かりにくいかもしれませんが、これでは永遠に赤や薄ピンク（不満・やや不満）が永遠に続いてしまう、来年やっても再来年やってもと同様だと思います。今のお話を聞いていると、目標値というかこの評価の仕方が難しい、判断しにくいのだと思いました。
　新型コロナで、田舎で暮らす満足度が多分上がっているのではないかと思います。また人の考え方や新しい暮らし方も変わっているので、ここはもう一度町民に問いかければ、また違う評価をもらえるのではないかなと思いました。

（和合委員）
　今、住民代表として見させていただいて、こんなに取り組んでいるのだなという感想です。「役場がこのようにして取り組んで、一つ一つこのようにしてやっている」ということが浸透していない。これをどうやって住民に伝えたらいいのかなと思いながら見ていました。

（村本委員）
　１の３の消防・防災・減災のことについてです。町では２年ほど前から防災士の育成に取り組んでおられます。何名の防災士の方がいらっしゃるか自分は分かりませんが、今後はそういう人たちをどうやって地域の防災に生かしていくか、助言等いただきながら地域防災に生かしていっていただけるかというのが、これからの課題だと思います。大雨の被害、南海トラフ地震が叫ばれる昨今ですので、そういうことも取り組んでいたけたらと、要望としてお願いします。

（岩崎座長）
　今 14 名の防災士がいるというお話でした。他にもしなければ、今のことと絡んで、２番の満足度調査結果への意見に移りたいと思います。
　それでは、満足度調査ということで、これは資料の１の１に集約されていますけれども、先ほどのご説明で、ほとんどが 2014 年度と比べて低下している状況が見られたわけです。もちろんこの指標の取り方云々もあると思いますけれども、この満足度調査に関してご意見があればいただければと思います。
　では、先ほど満足度調査のことでお話しいただきましたが、もう少し付言していただいてよろしいですか。

（阿部委員）
　事前のご説明を伺ったときに、満足度が全部低下しているのは意外な気がしました。移住が増えていることもあり疑問に思ったので、もしかすると 65 歳以上、高齢の方の意見が強めに出てしまっているのではないかと思い、「アンケート回答者の年代別の分析、クロス集計があったほうがいいのではないか」というアドバイスをさせていただきました。時間がない中事務局が頑張って、素晴らしい年代別の分析をしてくださったことで、幾つか見えてきたニーズがあります。
　町がこのまま持続可能でやっていくためには、若い子育て世代のニーズをクローズアップしていく必要があります。もちろんご高齢の皆さまのところから何かを奪って若い人に与えるということでは

ありませんが、ご高齢の方のほうが人数が多いので、どうしても意見が強くなってしまいます。でも一方で、町をこれから担っていくのは若い子育て世代の方なので、全体として見るのももちろん大事ですけれども、世代別にニーズを洗い出して、ピンポイントで町の持続可能という点から施策を組み立てていただければと思いました。

（岩崎座長）
総じてですが、全体と比べて 29 歳以下のほうが満足度が高く出ています。そのようなことも伺えます。

（原田委員）
高齢者のタクシー券の利用があまり良くないという意見が出ていたかと思います。このタクシー券は病院へ行く、医療にしか使えない条件で発行されているものですが、それぞれの家族構成を鑑みてはいかがでしょう。一律に高齢者といっても二世代、三世代、家族で住んでいる人もいますし、単独で暮らしている人もいます。例えば単独で暮らしている方には、色の違ったタクシー券を発行する。この券は、病院へ行き、銀行・郵便局へ寄って帰ることもできる。そういった柔軟な施策が必要ではないかと思いました。

（岩崎座長）
３番目の論点、「暮らしの安心安全に関すること」というテーマでご意見いただければと思いますが、さらに三つぐらいに分けて、順番にお話を聞いていければと思います。まず１番目として「子育て環境の整備」、それから２番目としまして「暮らしやすさの整備」ということ、そして３番目として、先ほども論点を出されましたけれども、「防災減災への対応」、この三つに分けて順次ご意見を伺いたいと思います。
まず子育て環境の整備ということですが、こちらに関しては、満足度調査が子育て世代にはそれほど満足度が低下していないという状況も出ています。比較的良い状況なのかなということが統計からは伺われます。子育て環境の整備、この点に関していかがでしょうか。

（後藤理恵委員）
今年からお世話になります校長会代表です。小学校をやらせていただき、子育ての人数が減っていない、子育て世代の満足度が高いというのは、とてもうれしいことだと思いました。統合が始まった当時は、地域に学校がなくなってしまって、声も聞かれなくなると非常に寂しい思いをされた地区がたくさんあったかと思いますが、今こうして保育園も含めて１町１園１校になってしまったことで、逆にそれを強みにしてできることがあるのではないかなと最近は思っています。その強みとは、福祉なども含めて、一つの場所に集約するということですが、「あそこに行けばそれのことについては相談に乗ってもらえる」、「あそこに行けば皆が分かる、必要ならば専門のところにもつないでもらえる」という感じで、一つのところに集まったという良さを生かせると良いかと思っています。
一度出て行った人が戻ってくるには、プラスの理由だけでなくマイナスの理由もあるかもしれません。でもそうやって戻ってきてくれるというところは評価できる点です。私は東栄町の住民ではありませんが、花祭や伝統化している中学生のバンド活動、あとは子どもがダンスをやって地域のイベントで踊るなど、人とのつながりがあるからまた戻ってくるのかなと思っています。いろいろなところに「強みを生かして」とありましたが、それが子育てにつながった成果なのかなと思います。
また、東栄町で印象に思うのは、３人以上お子さんをお持ちの家族も結構いらっしゃるので、そのようなところに子育てしやすいからだろうと感じています。

（岩崎座長）
子育てということから何かもしあれば、ご発言いただければありがたいのですが。

（金田委員）
先生が言われたように、バンドやダンスなど伝統化していて、うちの長女と長男の両方ともダンスをやりましたし、バンドもやらせてもらいました。町場であれば子どもだけの横展開のつながりばかりのところが、今 19 歳になる長男は、教えてくれた先生たちと年代を超えた縦のつながりを持つことができました。久しぶりに会えば「大きくなったな」などと声をかけてもらい、ダンス等をやっていなければ顔も知らない人ですが、私からすれば子どもという認識しかない我が子を大人として受け

入れてくれる、そういうつながりで地域の人が温かい目で見てくれています。今後東栄町に帰ってくるかどうか分かりませんが、帰ってきた場合には消防団などいろいろなところに声をかけてもらえるのではないかと思います。これが世代のつながりではないかと感じます。

先ほどの校長先生のお話にもありましたように、東栄町で伝統化している活動や、私が今コーチをやっている少年野球といった活動を今後も続けていけば、世代のつながりが持てると思います。高校を卒業して帰ってきたときに、地元の野球チームへそのまま入ってくれるなど、向こうからも声をかけてくれる、あいさつしてくれるというようなつながりが今後できてきたら、もっと良くなっていくと思います。

（岩崎座長）

横の関係と縦の関係だけではなく、斜めの関係がいいといわれますが、まさにそのとおりだと思いました。

（和合委員）

校長先生のお話を聞きながらそうだったなと思い出すのが、私の子どもたちが小学校の頃にちょうど統合の問題があり、いろいろ話し合いがあったときのことでした。あのときは新しい小学校から入ることで、大変だとか、そこでいじめがないだろうかなど、いろいろな心配がありました。現在では一園になって良い環境で皆が学んでいると聞きました。東栄町の人口も減り、同時に資金源も減っていく中で、学校などが縮小となることで、皆からいろいろな意見が出てくると思いますが、一つに統合されることによるメリットもあると思います。今後このような統廃合がまた計画されると思いますが、私たちの立場からより良い 10 年後の未来のために意見を出していきたいです。今この総合戦略の中で、縮小化されるなどの問題も挙がってきていますが、人も足りない、お金も足りないとなってくると、そうせざるを得ない状況にあります。そこにおいて精いっぱいの取り組みがされて、現在の学校はこういう中でできたのだと振り返らせてもらって聞いていました。

（山本委員）

私は 10 年前に東栄町に来たのですが、こちらに来るときにちょうど小学校が統合しました。子どもを２人連れてきたのですが、こちらに来て本当にびっくりしたことは、親を誰々のママとは誰も呼ばず、私を個人としても見てくださることです。また、学校の先生が子どもの名前と親のことも全部分かっていて、本当にびっくりしました。さらに、運動会などは、おじいちゃん、おばあちゃんも見に来てくださいます。本当に感動したのは、小学校の運動会の片付けです。テントを親が全部片付ける他、ごみ拾いなどもしていました。私はずっと信州に住んでいて、同じ状況でそのような場面は 15 年で一度も見たことはありませんでした。東栄町では、PTA の役員だけではなく、全員が PTA として参加していると感じ、本当に環境が良くて感動しました。

今年はありませんが、中学校では海外研修をはじめ、いろいろなことが平等に子どもたちに与えられています。子どもたち全員に役があります。町に行くと、役のないまま時が過ぎていくものですが、東栄町の学校では全員に役が回ってきて、全員にスポットを与えてくれるというところは、まちづくりの中でもアピールポイントだと思います。こちらに移住してくださる、特に子育てで移住してくださる方には、チャンスがあるなら話したいくらい良いところがたくさんあります。子育てにはとても良いところだと思いました。ダンスやバンド、フットサルなどのイベントも、役場がやるのではなく、一般の人が計画を立ててやってくださるところにも感動しました。子育てにはとても良い町ですので、チャンスがあればもっと外にアピールしたらいいと思います。

（岩崎座長）

ありがとうございました。昨年度、総務省が過疎地域の調査をやっています。その全国調査の中で、過疎地域のイメージとして「子育て環境が良い」という印象はかなり低く出ています。このことから一般的には、過疎地域は子育て環境が悪いというように思われています。ところが東栄町はそうではないということです。東栄町の総合計画に「幸せを実感できる最先端の田舎」というサブタイトルがありますが、それを形にするための一つの PR なのかなと思いました。

それでは、子育て環境に関してはよろしいですか。では、次は暮らしやすさの整備についてです。これは非常に重要な点だと思います。例えば買い物や交通、医療福祉サービスの受けやすさ、情報ネットワーク環境など、さまざまな面で暮らしやすさの整備は重要になろうかと思います。本日は委員の皆さん、それぞれのお立場を代表して参加してくださっているということですので、それぞれのお

立場からお感じになることがあれば、ぜひご発言いただければと思います。

（後藤理恵委員）
学校の立場からお話をします。交通安全、防災などになってしまうかもしれませんが、通学路のプロジェクトのようなものも整備され、いろいろなところとつながって、非常に早く対応していただいていることは一つあります。しかし、基本的に東栄町の道路は狭いので、高齢者も増えて不安なところかと思っています。買い物や医療福祉などには限界があって、全部町内でというのは難しいです。私も設楽町に住んでいますが、やはり休みには新城に買い物に行きます。そうなったときに、東栄町として何を目指すのかというところです。生活にかかわることすべてを町内でということは難しいですが、ここの部分は仕方がない、ここは町外へ行く、というところも認めつつ、町内で行えることは何なのか。お年寄りの方、医療などは特に何が不安かというと、いざという時にどうしていいか分からないということもあると思うので、町内のあそこに行けばそういう相談に乗ってくれて、いろいろなところへつないでくれるという安心感があれば、だいぶ違うのかなと思っています。
最後に情報ネットワークについては、今回コロナのこともありまして、一気にオンラインが進み、学校でも今年度中に１人１台タブレットが入るということですが、ネット環境がまだ整っていないところもあります。そういうときに、それぞれの学校で何とかしましょうとなっても難しいですので、町内に詳しい人がいてくれるなど、頼れる人や組織があれば、ということを一番思っています。豊根さんはもっと人口の少ない村ですけれども、ICT には力を入れるということで、少し前から取り組んでいるそうです。今は堪能な先生たちもいて、子育てに関することを自分のスマホでできるようにしたそうです。田舎だからこそ情報ネットワークを充実させるということを町としてやっていくといいのではないかと思っています。

（岩崎座長）
火を切っていただき、ありがとうございました。他の方はいかがでしょうか。ぜひそれぞれのお立場からご発言いただければと思います。

（小林委員）
先生がおっしゃったネットワーク環境の整備についてです。みなさんおっしゃるように、コロナの影響で東栄町のように混み入っていない場所であったとしても情報通信の必要性が出てきている。学校もそうです。私は少し前に新城の病院の取り組みを取材する機会がありました。東栄、設楽、豊根の診療機関と電子カルテを共有化して、私が取材したところによると新城は２町１村の救急医療をやっていらっしゃるというお話でした。事前に患者さん、住民の病状なども把握できれば、来たときにすぐ対応ができると思います。今後情報ネットワークがきちんと強化されていけば、わざわざ病院に出向かなくても、自宅でタブレット、パソコンなどを使って診察ができます。場合によっては事前に腕時計のような体調を測る機械を付けておけば、それを見ながら診察などができるので、そういった体制ができると安心できる部分があるかなと思います。ただ同時に、お年寄りの方は、なぜこれを付けておくといいのかということまで理解されるのは大変なので、そこをきちんとご説明できるような方がいるといいと思います。これは医療関係者でなくても IT に強い方が町内に１人いれば良い。あるいは、町外の方であっても専門の窓口を作って相談をまわせるようなチャンネルだけ作っておけばいいのではと思いました。

（村本委員）
商工会の立場で発言させていただきたいと思います。現在、移動販売車を町内一円月曜日から金曜日まで回しています。朝から雨という日は、中止になる場合があります。このことは、移動販売車を１週間に１回の楽しみとしているお年寄りの人たちにとって、少し残念なことだと思います。これは、商工会と業者で考えることだと思いますが、例えば近くの民家の車庫やガレージを借りて、そこで店開きができないかなども考えていかなければいけないと思っています。そういう折にも、行政の力を少しお借りしてやっていければと思っています。
それから、現在２人で軽トラに乗って運行をしていますが、どうしても２人であると人件費等がかかってしまいます。商品については原価に上乗せはしているのですが、人件費については難しいです。今は県や町の補助をいただいてやっています。これも続けていかなければいけない事業だと思っていますので、しっかりと相談しながらやっていきたいと思っています。

（岩崎座長）
移動販売についてということですね。その他どうでしょうか。

（和合委員）
新型コロナウィルスによる新しい生活様式を取り入れての生活でありますが、まだウィルスがなくなるわけではありません。東栄町においてこの新しい生活様式を取り入れていくとしたときに、情報ネットワークを活用していくことが必要だと思います。お年寄りの方は、スマホやパソコンなどの使い方はわからないと言いますが、いざおいでん家でスマホやパソコンの勉強会をやると、興味を持って見てくれます。そこで勉強したことを自宅でも試してみて、わからないところがあると次回また聞きに来てくれて、そこで練習を繰り返すなどしながら、スマホを持つ人が増えています。
そうすると、病気で寝ていて電話のところまで行くことができない状態でも、携帯を横に置くだけで連絡が取れるようになります。今この情報ネットワークを利用する新しい生活様式を取り入れていくことは大きいと考えています。IT に強い人に来ていただき、このような勉強会をひらいて、分かりやすく使いやすく取り入れていきたいと思っています。

（岩崎座長）
ありがとうございます。農協、あるいは信金の視点から何かあればお願いしたいのですが。

（櫻井委員）
本題に入る前に一つ。実績の計画表に関して、私も項目が多過ぎると思います。もう少しスリム化していかないと、深く掘れていかないのではないかと思います。あまりにも目標が高過ぎると、かえって厳しい。予算の問題もありますから、実際にできること・できないことをきちんと選別する。短期、中期、長期的にやれることを分類して進めていかないと厳しいと思います。東栄町の職員はスキルが高いので、いろいろやっていただいていると思いますが、全てが浅く終わってしまうのではないかという気がします。
アンケートの満足の定義は人によって違うものですから、同じことをしても一人は満足で一人は不満足ということがあります。当然 100 パーセントでなくていいでしょう。公的機関ですから、お客さまのアンケート・地元住民に寄り添った目線・対応で考えて、精査してみてもいいのではないかと思いました。
せっかくこのアンケート結果が出ているので、いろいろなことの要因を踏まえてもっと奥深くやっていただき、リカバリー策をきちんと立てた方が実効性があるのかなと思います。地元住民とこちらの考え・気持ちのベクトルが同じでないと、住民の思いも高まらないと思いますので、アンケートをもとに、住民の考え・希望することを中心に、公的機関がやれることに優先順位をつけてやっていただけたらと思っています。
暮らしやすさの整備の件についてですが、今こちらに住まれている方の気持ちも大切ですが、暮らしやすさの整備は、移住者に対しても考えてはどうでしょう。昨年東栄町には 90 人近い人が移住されたと思います。暮らしやすさの整備をすることによって、移住にもつながると私は考えています。実際にどういうことが望まれているかを再度細かく深く掘り込んで、例えばアンケートを採るなどし、その中でこちらができること、できないことを判別、分類していけたらと思います。
例えば自営業者、サラリーマンなど、移住者の業種別や世代別での分析もきちんと行っていただきたい。他の自治体が空き家の利用促進を行っています。今東栄町にも空き家があります。空き家は 800 万円、600 万円と費用がかかり、移住したくてもなかなか来られない方がいると思います。空き家を町が借り上げるのではなく、町が空き家の持ち主と提携して、補助金を出すなどし、リフォームする。そこに移住する人はその家賃を払い、町のリフォーム代や持ち主に家賃を払うなど、なるべく移住しやすいような環境を整備する。大きな金額を移住される方に負担させるのではなく、低額な家賃負担であること。空き家を持っている方は何もしなくても家がきれいになるというメリットがあるということ。そして、町が補助金でやることで、例えば家賃が４万円であれば２万円は町に入って、２万円は家の主に入るなどの方法があります。そういう形も一つの案ではないかと思います。その代わり、リフォームする際には家主さんの希望ではなく、町が予算の中でやるなど、ラインを作ってやると、移住する方も来やすい、低予算で来られるという形になります。
先ほどお話があったと思いますが、コロナの関係で、仕事の環境もだいぶ変わってきました。インターネットの波及によって、こういう過疎化の田舎の地域でもインターネットで仕事ができるとい

う、過疎地にはプラスの条件が整っています。ネット環境の整備をすることによって、もっと移住者が増えてくるのではないかと思います。実際に当信用金庫のお客さんで、一戸の貸ビル、テナントを持つ、一国一城の主になるというのが夢で来られた方も見えます。そういう方は、実際に家賃を月に40 万円、50 万円払うなど、高額な支払いをしております。それがコロナの関係で、従業員が仕事を全てインターネットでするような環境になり、見直しをすれば 4,000 万円、2,000 万円浮いてくるという言葉も会話の中でいただいています。昔は自分が商売をして成功した証として一国一城で事務所を持つなどしていましたが、そういうものは不要ではないかという流れを実際に現場で聞いています。そういう環境を踏まえてネットワークなどを整備していただければ、いろいろな人が来やすい環境、人口減ではなくプラスに転じる一つの要素になるのではないかと思っています。

暮らしやすさの整備も同じことですが、こちらからの提案だけではなく、また新たに細かなアンケートを採っていただいて、その結果先ほど言ったようにできること、できないことを区別してやっていけば、より地元住民に寄り添ったサービスができてくるのではないかなと思っています。

（後藤佳史委員）

先ほどからネットワーク環境の整備が話題になっていますが、インターネットの環境は良いものの、災害などあったときには停電になり電源が使えなくなってしまいますし、アンテナの基地がつぶれて携帯電話がつながらなくなってしまうこともあります。

私は設楽から通っています。アナログな話題ですが、東栄町に入るとラジオがほとんど入らない環境です。管内に住んでいる方は、初めから入らないものとしていてあまり意識・関心がありません。ラジオが入らないなら入らないで済むかもしれませんが、町外から来た人からすると、ラジオが入らないというのはイメージダウンにつながっているのではないかと感じます。災害などのときにも、ラジオで情報を流せるのであれば情報を得られるのではないかと感じました。

今後の時代、ラジオのニーズがないということであれば仕方ないですが、低予算でできるものなら、その整備も考えたらどうかと思いました。

（岩崎座長）

では３番目としまして、防災、減災への対応です。既に防災士のことはご意見を出されていましたけれども、その他、そのことを含めても構いませんが、いかがでしょうか。特に重要な観点かと思います。

（原田委員）

一昨年、地区の役をやっていた折に大雨が降ったから避難をさせてくれという情報が入りました。私どもの地区の中のトンネルの向こうにあるエリアの避難所は、奥へ入っていくところに位置します。そちらへ行くのがいいのか、町の中心のほうにある避難所へ避難するのか、住民が考えないと行動できないというのは、難しいものがありました。

もう一つ、避難所を開設するにあたって、「鍵は誰が持っているのか。」「きょうの食料はどうするのか。」「座布団が要る。」「毛布が要る。」など、ほとんど準備がされていないのが現状です。それを使うにしても、今度は防災倉庫の鍵がない。すぐその場で使えるという状況を整えておかないと、安心安全といえないのかなと思います。

昨年、台風の情報が入ったときに、避難所を開設してほしいと要請がありました。避難所を開設して建物の戸を開けたのですが、誰もいません。誰もいないところに避難するのか？という状況がありました。避難所を開設したなら、やはり誰かいなければいけない。同じ区長同士で連絡を取り合ったところ、「俺たちは建物の戸を開けて帰ってきた。」という状況だったりしました。その辺は皆さん、同じ思いでいたら受け入れて、困ったことについて防災本部と連絡が取れるような体制を取っておかなければいけないと思いました。

（岩崎座長）

なるほど。生々しい現実ですね。

（櫻井委員）

先ほども出された、避難所の鍵の件についてです。震度３か４で自動的にロックが解除されるシステムを提供している事業体があります。これで鍵を持つ区長さんが行かないと避難所が開かないという状況は避けられる。どこかの自治体は既に導入しているようで、鍵がない人も誰でも入れる。高額

になるかもしれませんが、そのようなものの設置を考えていただけたら助かります。
　自治体によっては、簡易のリヤカー、女性用の簡易のトイレ、バッテリーや発電機や学校用の大きなマイク、座布団などの備えをしています。色々な自治体のオピニオンリーダーに確認を取っていただければ、ご参考になる情報を伝えていただけると思います。ただ、そこでも一番問題視されていたのは、高齢の一人暮らしの方をどうやって運ぶのかです。リヤカーでは運びづらいなど、その辺がまだ解決がされていませんでした。ご参考までに。

（金田委員）
　先ほど防災士の話があったと思います。私も会社の命令で昨年防災士を取りました。今、町で 14 名みえるということですが、私は町に登録していないのでここに含まれていないかもしれません。町で助成金をもらって取得した人がいると聞いています。
　私が講習を受けた限りでは、14 名では何もできないと思います。たまたま東栄町には消防団という良い組織があります。20 歳から支援隊を含めて 50 歳までです。そこをうまく利用・リンクさせたら、防災マップを作るなどできるのではないかと思います。
　私も支援隊員をやっています。指揮系統の話になりますが、防災士は防災士、消防団は消防団の指揮系統でやるとなると、指揮がちぐはぐになってしまいます。うまく消防団を使えば、町からの司令で、消防団の中に+αで退団した方、女性の方、防災士などを入れて、指揮系統は一本筋でいくと思います。
　「私は防災士だから」と実際何もやったことのない人が勝手なことを始めてしまうと、まとまるものもまとまらなくなってしまいます。多分防災に関しては、消防団のほうがプロだと思います。行政の中でうまくすり合わせ、現役消防団の中で役員が防災士を取っていくようにすれば、年々防災士の数は増えていくと思います。指揮系統も基になるものがあります。自分が受講し実際に取得してみてそのように感じました。

（岩崎座長）
　なるほど。ありがとうございます。防災、減災に関して、他にいかがですか。

（山本委員）
　今回コロナがあったので、防災とコロナも含めてお話します。私が住んでいる上粟代地区では、区長さんたちと社協の方も呼んで、コロナ、震災、いろいろな状況にあって、「もし振草の辺を出られなくなってしまったら、３週間どうやって生きればいいのだろう」というテーマで、35 世帯約 70 名での３週間を考えました。１週間は自分のところにある備蓄で何とかなる。週間目はこちらで用意してある備蓄を配ろう。３週間目は防災食で何とか炊き出しをしよう。という感じで、４回くらい会議をしてまとめました。
　そのときに防災士の話が出ました。防災士の人は大がかりな炊き出しをしなくても、ビニール袋を使ってお米の食事を作る方法を知っているのですね。「14 人余いる防災士さんから少し講習を受ければ、普通の主婦でもできるのかな。消防団の方、防災士さんの学んだことを教えていただく機会があれば、力になれるかな。」とその時思いました。

（岩崎座長）
　いろいろと課題が出てきましたが、やらざるを得ないことですね。
　時間が迫っているので、４番５番はまとめてやりたいと思います。４番目は新たな視点への助言ということで、もう既に何度かご意見が出ています。コロナの中で新しい生活様式をどうするのか、既に作られているまちづくり基本条例の理念に沿ったまちづくりとは一体どういうものなのか、あるいは委員ご自身が普段からまちづくりについて感じていること、また言い落とした点がもしあれば、まとめてお話しいただければと思います。

（後藤理恵委員）
　失礼します。あらためて学校の責任は大きいと思いました。「ずっと住み続けたい。」などという意見がある一方で、「盛り上がりに欠ける。」など、いろいろな意見があります。そういうところをつなげるのが、もしかしたら子どもたちの力なのかと思っています。コロナで中断してはいるものの、今現状では、保育園では地域のお祭りや敬老会に子どもたちが行って参加しています。小学校はフェスティバルや絆プロジェクトで太鼓を演奏し、授業の中では福祉など、いろいろなところで、老人クラ

ブや福祉施設、おいでん家さんなどとつながる活動をしています。中学校になるとキャリア教育と言われる学習で、職場として捉えることでそこに暮らす人たちの生き方の話も聞いたりして文化祭などで発表する。それが本当にまちづくりに直結している、大切だということを改めて感じました。１町に１校だからこそ、町に向けて元気を発信したり、人を集めたりなど、そういう役割を担っていくのだと思いました。

防災については、学校は学校で防災計画を立てています。大雨が降ったらメールして配信しています。それを学校でやっていますが、町に１校であることで校区が広い。本郷は雷が鳴っていなくても、他はひどい土砂降りということもあります。校長としては非常に不安な要因なので、地域とつながり協力してできるような仕組みがあると助かります。

（村本委員）

今日この会議で是非伝えてほしいと頼まれたことがあります。私も同様に感じていることですが、東栄チャンネルが開設されましたが、普段毎日それを見る人というのは、あまりいないと思います。今まではお悔やみや出生、ご成婚などは放送されていましたが、毎日見ないがために、ともするとお悔やみなどを見落としてしまうこともあると思います。毎日お悔やみがあったり、出生があったりするわけではないので、広報で知らせてくれてもいいのではないかという声をいただきました。申し添えておきます。

（小林委員）

先ほどラジオが入らないという話もありました。私も今日豊橋から車で来るときに、東栄に入った瞬間に FM 豊橋が切れる経験をしました。ただ一方で、私も仕事で取材させていただいている中で知ったことですが、それなりに対策のようなことをあちこちでしていらっしゃると感じています。東栄チャンネルにしても、ラジオの補完的な意味合いもあるのではないかと感じています。今の方のお話からすると、あまり見ている人がいないようです。

防災の面で、各家庭への発電機の補助をこの間始められたように聞いています。果たしてどれだけ住民の方に伝わっているのだろうか、という気がしました。せっかくやっていらっしゃることがあるので、町として奥ゆかしく済ませるのではなく、今までの広報だけではなくいろいろな形で「このようなことをやった。」と、鬼の首を取ったように言ってもいいのではないかという気がしました。
先ほど防災士の話がありましたが、何かあったときに東栄チャンネルで、「防災士の方はこのように行動してください、区長さんはこのように行動してください。」と流すチャンネルだということを教えておくだけでもいいと思います。常時防災士の紹介なども含めて流すことで、東栄チャンネルの視聴率を上げ、防災士の方の意識を高く持っていただく助けにもなるかもしれません。「アイツも防災士になったのか。」と興味本位で視聴率が上がるかもしれません。町としてもう少し自分たち（町）の取組を伝えるといいのかなと思いました。

あとは、他の方もおっしゃったように、調査結果や方針の部分の量が多過ぎる、あまり意味のない目標が設定されているところをスリムにしていく。これと合わせて項目の整理が必要です。支え合う健康福祉の町など、七つくらいの大方針を決めていらっしゃいます。福祉や健康、教育などと分野が分かれるのは仕方ありません。

よく考えていくと、異なる大項目間においても、関係するものが結構あると思います。情報設備などを強化するというのは、子どもの教育にも防災にも関係する。優先順位を決めるときに、この項目は他のどの項目にも関係しているというのを可視化して分かりやすく見られるようにすれば、取捨選択する参考になるのではないかと思いました。

もう一つ読んでいて思ったのは、難しい横文字が多いという気がしました。「セーフティーネット」や「SDGs」といわれて、これはどういうものなのかを説明できる方はどれだけいるのかなと思いました。町としては住民の方に広く知ってもらって、一緒に総合計画を作っていきたいというスタンスでいらっしゃると思うので、それであれば「セーフティーネット」は「何かあったときの備え」、「ストックヤード」は「倉庫」「備蓄場所」等、括弧付きで結構なので、きちんとした日本語で、分かりやすい言葉で書かれたほうが、多分住民の方もとっつきやすいだろうと思います。子どももご老人も、全年齢的に関与しやすくなるところでは、そういった易しさも必要なのかなと思います。

（和合委員）

今言われたテレビ（東栄チャンネル）は接続で終わってしまっています。見てくれますか、どうで

すかと、もっとアピールしてうまく宣伝されると意識的につけるのですが、「つけました。」で終わっていて見ることを忘れてしまいます。それよりは、広報で聞きたいという志向が残っているので、そこをうまくこちらに切り替えるように意識付けしてもらいたいと思います。
　先ほど先生が「盛り上がりに欠けるところを補うのが小学校かな。」と言われた通り、お年寄りが多い町にとっては、子どもたちが動いてくれるととても刺激的です。運動会・生活発表会など、トラックにのぼりを立てて町内を走るなど宣伝が必要です。広報などで聞くよりも具体的に動くことで、お年寄りの町は「少し動いてみようか…」という気持ちになります。情報だけ入れても、動かないのがお年寄り。もっと宣伝をすることで町の盛り上がりが連結されると思うので、それを皆と一緒に考えていきたいと思いました。

（櫻井委員）
　一人暮らしの老人の方は、大きな問題を抱えていると思います。人口が 3,100 人を切り、世帯数 1,500 世帯ということは、平均２人世帯ということになります。お年寄りでも仲の良い人がいる、近所とお付き合いがある方は、何かあったときに近所の人が異常を察知して対応できると思いますが、足が悪くてお付き合いの場に出られない、性格的に人との付き合いが苦手という方の安否確認には課題があります。私のところの取組で、新聞が何日分もたまっているなどの状況に外交職員が気を配っています。「どうもおかしい。」という時にはその情報を届けるなど、色々お手伝いしています。そういう異常に気付いて連絡をとると、娘さんのところにずっと身を寄せていて、新聞は週末に帰ってきた時にまとめて抜き取るようにしているという方もいます。お年寄りの健康管理と言いましょうか、外回り外交をしている中でこれに気づくというのはなかなか難しい。
　お金がかかるのですが、テレビのチャンネル操作の有無で安否を確認するなど、一人暮らしの方にはそういったケアを考えていただけるとありがたいと思います。

（岩崎座長）
　まだご意見があれば、ぜひ後日でも事務局のほうに、メール等で送っていただければと思います。皆さんのご意見を伺ったところ、事務局の方針案に対して、特に否定的なものはなかったかと思います。ただ、いろいろとご意見をいただきましたので、事務局はそれらを後期計画の策定に生かしていただければと思います。
　最後に、今後のスケジュールを事務局からご説明をお願いします。

（事務局）
　資料３のテーブル表をお出しください。事前に説明に伺ったときにお話をさせていただいているものになります。計画策定の３月完成を目指していまして、そこに向かっての全体のスケジュールを記載しています。本日、一番上の計画策定のところで、第１回の推進会議を行わせていただいています。８月、９月ぐらいには、表の中ほどの振り返りというところになりますが、今日ご出席いただいている委員の皆さんのお力を借りながら、事前に行っています外部評価を実施していきたいと思っています。いただいた助言、その他意見聴取として行うまちづくりミーティング、各種団体へのヒアリングから意見交換などを重ねていって一旦計画案を作成し、10 月に行う第２回推進会議で提案したいと思います。その後、11 月後半ぐらいからパブリックコメントに１カ月かけまして、これ踏まえて１月中旬ぐらいには最終案をいったん固め、第３回の推進会議で最終的な提案をさせていただきたいと考えています。
　詳しい日程につきましては、後日詳細を連絡させていただきます。引き続きよろしくお願いします。

（岩崎座長）
　どうもありがとうございました。以上をもちまして、本日予定していました議事は全て終了ということになります。再度事務局にお返しします。

（事務局）
　岩崎先生ありがとうございました。また、委員の皆さま、長時間にわたり本当にありがとうございました。本日いただきましたご意見、またご助言を踏まえて、計画策定の作業に入っていきたいと思っています。また、８月、９月には外部評価がありますので、それにつきましても合わせてお願いしたいと思います。
　最後になりますが、副町長よりあいさつをお願いします。

（副町長）
　本日は長時間にわたりまして、活発な意見交換をしていただきまして本当にありがとうございます。たくさんの意見を頂戴しました。この会議からいろいろなものを吸い上げながら、また外部評価もお願いするわけですが、そういったものを積み重ねていって、より良い総合計画を作っていきたいと思います。これから最終的に作り上げるもの、来年の年を明けて目標に作っていきたいと思っていますので、普段でもご意見がありましたら、ぜひ呼んでいただき、それらを実になるようにしたいと思います。よろしくお願いします。本日はどうもありがとうございました。

（事務局）
　以上をもちまして、第１回推進会議を終了します。本日は誠にありがとうございました。

【閉会　正午１２：００】